

かほく

# ワークシート

## 問題

- ①加藤さんが落語に興味を持ったきっかけは、どんなことでしょうか。
- ②大賞受賞を目指している落語大会の名前は何か。

(小学校高学年／朝の会・志教育)

# 盲目落語少年 夢は学生大賞



大学進学を前に、独演会で落語を披露する加藤さん＝3月24日、新潟県燕市

## 18歳茨城の大学に進学

目が見えないハンディキャップを背負い、新潟県で高座に上がってきた「落語少年」の加藤健太郎さん(18)がこの春、県立新潟盲学校高等部を卒業し、茨城の国立大に進んだ。鍼灸などを学ぶ傍ら、学生落語選手権の大賞獲得が新たな夢だ。離郷前の3月、感謝の気持ちを胸に、初の自主公演となる独演会を地元の新潟県燕市で行った。

「『あの網の所にいる人を見なさい』とおばちゃん。ゴールキーパーのことです。』あの人は暇げだねえ」。3月24日、約100人を集めた独演会で、加藤さんがサッカーを初観戦する地元の中年女性の勘違いを描写すると、笑いが起こった。夫婦を描く演目「芝浜」で、夫が妻に「人に感謝されたとき、お礼を言うときほど、うれしいときはない」と言う創作のせりふを加え、支えてくれた人に感謝を表した。

出生時から目が見えない。盲学校小学部1年時、テレビで聞いた古典「皿屋敷」に魅了され落語に没頭。「笑ってもらうのが最高の楽しみになった」と語る。4年生で師

## 「人生 楽しんだもの勝ち」

匠についた。「たら福亭美豚」の芸名で高齢者施設、公民館などで演じ、子ども落語の全国大会で賞も取った。持ちネタは約170を数える。進学先の筑波技術大(茨城県つくば市)では1人暮らし。不安はあるが、演芸場のある東京・浅草には近くなった。生の落語を聞く機会を増やすのが楽しみだ。学業優先の上、全日本学生落語選手権「策伝大賞」に出て大賞を狙うつもりだ。

ハンディに悩んでも友人や落語仲間にも困まれ「明るくいられた」という。「もし目が見えたら、と考えてもしようがない。人生、楽しんだもの勝ちだから」。現在、プロを目指す予定はないが、茨城でも落語会を開きたいと考えている。

(2018年4月19日河北新報夕刊)